

政進クラブ 東 秀哉 議 員

1 地域振興について

本格的な人口減少時代に突入し、同時に超高齢社会を迎えている。

- (1) 人口問題をこのまま放置すると私達の地域が大変な事態に陥るという危機意識の共有が充分にできているか。

また、今後どのようなまちづくりを目指すか、示されたい。

- (2) 鹿屋市振興のためにも、大隅地域全体の振興を考えていかなければならない。大隅の拠点都市としてリーダーシップをどのように図っていくのか、示されたい。

- (3) 人口の実情と課題を考えるうえで、「自然減対策」と「社会減対策」の両面からの施策が必要である。

① 人口流出をどのように是正していくのか示されたい。

② 地元雇用の受け皿としての地元中小企業の発展は重要である。持続・継続していくための振興策を示されたい。

③ 観光分野における外貨獲得のための交流人口の増加にどのように取り組んでいくか、示されたい。

④ マリンポート・鹿屋港定期航路なんきゅう8号の就航により大隅・薩摩両半島への人の流れが活発になり、様々な分野でその効果が期待される。本航路を維持・発展させていくため、行政としての課題をどう認識し、どう取り組んでいけるのか。また、取組に当たって関係機関・諸団体との連絡・調整はどのように図っていかれるのか、示されたい。

- (4) 地域コミュニティの中核を担っている町内会（自治会）では、加入者が減少し、安全・安心なまちづくりのための活動の維持が困難になっている。今後の方向性を示されたい。

- (5) 超高齢社会を迎え、今後ますます独居高齢者が大きな課題となる。地域で支える社会づくりをどのように進めていくか、示されたい。

## 2 デジタルツイン技術の本市での社会実装について

- (1) デジタルツインの本市での社会実装について見解を示されたい。
- (2) 本市での活用事例はどのようなものがあり、どのような便益がもたらされているか、示されたい。
- (3) 自治体行政での活用分野に限らず民間での社会経済活動の分野でも今後創造的に広がっていくものと期待できる。民間を主導するためにも早急に取り組むべきと考えるが、どうか。
- (4) 本市での社会実装に向けて広報にも注力する必要がある。不動産業界・建設業界・農林水産業界・自治会等との協業も推し進める必要があるが、どうか。

## 3 「目指せ！かのやスポーツ実施率日本一共同宣言」について

- (1) 共同宣言に至った経緯とスポーツ実施率日本一に向けた本市の取組を示されたい。
- (2) スポーツ推進委員等の追加的役割も必要となると思われるが、どのように考えるか。

## 4 保護者からの学校・保育園・幼稚園・学童保育所等への苦情・要望への対応について

- (1) 学校・園・所の教職員は保護者対応に苦慮し、精神的なストレスで休職等に追い込まれているケースもあると聞くが、本市での実態はどうか。
- (2) 保護者の苦情・要望には、まず、どこがどのように対応しているのか。
- (3) 事案によっては様々な関係機関との連携も必要だが、解決に向けてどう連携を図り、どう保護者に説明・対応しているか。
- (4) 学校・園・所の教職員を保護者からの苦情・要望への対応から解放し、学校・園・所では本来の子どもの指導・教育に専念させる必要があるが、どうか。
- (5) そのための対応体制を再考する必要があると思うが、どうか。

## 5 新たな学びの場「バーチャルスクール」について

- (1) 不登校の児童・生徒・医療的ケア児等が学校生活への参加が可能な「バーチャルスクール」の新設について見解を示されたい。